

会頭講演 6月19日 15:30~16:30

## 日本の伝統医学を世界に発信しよう

昭和大学医学部教授  
2011 鍼灸学術大会 in 東京  
会 頭 久 光 正

世界の各地域、各国にそれぞれ長い年月受け継がれてきた伝統的な医学・医療が存在しています。日本にも古来の民間医療に加えて、古く中国から伝えられ日本の文化・自然環境に適するよう応用・発展してきた伝統医学があります。日本では6世紀の仏教伝来と相前後して入ってきた中国医学の文献から医学を学び続けてきたという特徴があります。これは医療人の往来があった他の中国周辺の国とは異なっています。古い文献を大切に伝承し、10世紀には日本の文化・自然環境の要素が加わった日本最古の医学書「医心方」が鍼博士丹波康頼によって編纂されるに至りました。その後も中国古典を保持・研究しつつ、日本医学を発展させてきました。中国では清朝末期に鍼灸が廃絶され、また中華民国政府の中医廃止政策のため中国において中国伝統医学が消滅するに近い状態となりました。しかし中医会の中医存続運動によりこの危機を逃れることができました。運動には伝統医学体系化と新教材編纂が重要でありましたが、ここに多くの日本からの文献・教材が使われました。日本はこの時、すでに伝統医学の発信を行っていたといえます。

現在、中国はじめ東洋の多くの国で伝統医学の国際的情報発信が行われています。日本においても我が国の伝統医学の特徴、優れた点など世界に積極的に発信し、普及に努めることが求められます。世界に受容される情報とはどのようなもので、発信の方法はどうあるべきでしょうか。私は情報が科学的マインドのもとに、統計的、論理的な処理・考察がなされたものであることが重要であると考えています。また、世界への発信ということから日本語だけでなく英語での表現も行われることが必須であると思います。独特の用語や概念を含む事柄を外国語で表現することは大変ですが、学会や業界の積極的支援が望まれます。

我々はこれまで鍼灸あるいは漢方薬がどのようにして効果を示すのか、また、伝統医学で謳われる病態概念や診断法などにどのようなメカニズムがあるのかなどについて研究を行っています。本講演では瘀血という概念を血液流動性の低下と捉えた場合、科学的にどのように説明できるか、また、そこからどのような情報を発信が可能かについてなどを中心に紹介いたします。瘀血は血の流れの滞りと解釈されています。その原因にはもちろん血管や心機能の変化が考えられますが、一方で血液そのものの性状の変化も重要な要素であると思います。血流の減少があるとき一般にはまず血管拡張を目指し、対策を考えますが、血液が流れにくくなった場合にはこれを流れやすい性状に変えることも大切な対策となるでしょう。本学の病院に設置されている漢方外来で瘀血症状のある患者から採血し、血液流動性を調べたところ明らかに非瘀血の患者よりも血液流動性が低いことが

わかりました。また、これらの瘀血患者に駆瘀血作用のある漢方薬を処方したところ約一ヶ月で著明な血液流動性改善が認められました。そこでヒトや動物で鍼刺激が血液流動性に及ぼす効果について検討したところ刺激部位によっては明らかな血液流動性向上の作用が見られました。一般に精神的・肉体的ストレスが加えられると血液流動性は短時間で劇的に低下します。動物実験でストレス負荷により低下する血液流動性が鍼刺激により予防・改善されることが明らかになりました。ストレスが血液流動性を低下させ、脳梗塞や心筋梗塞のきっかけになることも予想されます。鍼刺激や駆瘀血薬が血液流動性を向上させ血流を改善するのであれば、脳梗塞・心筋梗塞の予防として伝統医学を活用する可能性が生まれます。伝統医学を疾病の治療として用いると共に疾病予防のために活用し、未病を治す方法の一つとなりうることを世界に発信したいと考えています。

## ■久光 正(ひさみつ ただし)

---



昭和大学医学部第一生理学講座 教授

学歴： 昭和52年 3月 昭和大学医学部医学科 卒業  
昭和52年 4月 昭和大学大学院医学研究科博士課程 入学  
昭和56年 3月 同 修了  
職歴： 昭和56年 4月 昭和大学医学部第一生理学講座 助手  
昭和56年10月 米国ペンシルバニア州ピッツバーグ大学医学部  
薬理学講座 Visiting Assistant Professor (2年間)  
昭和60年 4月 昭和大学医学部第一生理学講座 講師  
平成元年10月 同 助教授  
平成4年 4月 同 教授

### 学会活動など

日本生理学会 評議員、日本東洋医学会 代議員、日本疼痛学会 理事  
日本静脈学会 評議員、国際生理学会 member、国際疼痛学会 member、  
全日本鍼灸学会、日本免疫学会、日本統合医療学会ほか会員  
蘇州大学客員教授、揚州大学客員教授  
学校法人 昭和大学 理事

### 主な研究分野

- ・ 東洋医学的診断・治療のメカニズム
- ・ 神経系と免疫系の関連 ほか